



AA日本ニューズレター

No.180

■第8回全国矯正・施設メッセージフォーラムin北海道

矯正・保護でのメッセージ活動を広げるために

北海道地方更生保護委員会・事務局長 生駒貴弘

9月30日、北海道で初めての開催となる第8回AA全国矯正・保護メッセージフォーラムが開催され、私もシンポジストの一人として参加させていただきました。大変盛り上がったすばらしいフォーラムでした。最後の質疑応答では、矯正、保護それぞれの現場の担当者から、このフォーラムをきっかけとして今後はAAとの協力関係を築いていきたいとの発言もあり、会場中が大きな拍手に包まれたのが印象的でした。

今回、実行委員長からシンポジストの依頼をいただいたとき、「私ほどのような役割を果たせばよいのですか。」と尋ねたところ、「北海道の矯正施設、保護観察所、更生保護施設では、AAのメッセージを届けることができていないので、何とかこのフォーラムをきっかけにして、メッセージ活動を展開できるようにしたい。そのために力を貸してほしい。」とのことでした。

矯正・保護の仕事は、様々な関係者・協力者に対して、出所者等の立ち直り支援に協力を依頼する「お願いベース」の場合が多いのですが、AAの12ステップには「いま苦しんでいるアルコール依存症者にメッセージを伝える」という目標が掲げられているので、メッセージ活動は、お互いの利益に叶う「Win Win」の関係にあるはずですが、これまで北海道の関係施設でメッセージ活動が展開されてこなかったのかを考えてみると、我々の問題意識が成熟していなかったことや、AAメンバーとの「出会い」の機会が少なかったのかもしれないと思えました。今回、メンバーの皆さんから、「もっとメッセージを伝えたい」という明確な意思を示していただき、その思いは確かに、フォーラムに参加した矯正・保護の関係者に届いたと感じています。これから、この火を消さないように、周りの関係者にメッセージの輪を広げていきたいと考えています。

やっと矯正メッセージのスタート地点に立つことが出来ました。

実行委員長 ミホ

2016年9月30日に第8回全国矯正・施設メッセージフォーラムを札幌の教育文化会館で開催しました。北海道地域は、矯正メッセージの経験も矯正委員会も無い中、手探りでスタートでした。

約8年前、全国持ち回りで矯正フォーラムの開催が評議会で勧告(*)になりましたが、まさか自分が実行委員長をやることになるとは思っていませんでした。矯正小委員の経験者の方聞き、札幌大通りクリニックほっとステーションで、院長の長谷川直実医師と地方更生保護委員会の佐々木孝一氏などが中心となって「再犯防止を考える会」が奇数月に開催されていることを教えてもらいました。現在も地道に顔を出しているということで連れて行ってもらいました。ここでお名刺を交換させて

いただいた方達が、実に2年近く、実行委員会に関係者リストの作成から広報先、手紙の書き方、広報の仕方を教え、支え続けていただくことになりました。最初は頼りない実行委員会でしたが、元A類理事の荒木龍彦氏の支えもあり、実行委員会も熱がこもり、当日はみんな緊張とすがすがしい気持ちでした。

私たちは、こんなに多くの関係者がいるということ、皆さんがこんなにもAAに協力的であることを知りませんでした。ミーティングに来てくださったたり、イベントやオフィスを見学して下さったり、実際に広報していただいたり…。とても書き切れませんが関係者の方のエールを頂いてとても励みになりました。手配りでの広報、地下鉄や公共施設の掲示板への掲示依頼。他の委員会との調整。みんな本当に大変だったと思います。

当日は元A類理事の田邊等氏に講演を頂きました。最後のパネルディスカッションで「私たちはAAの友人である」と言っていたいただき大変嬉しく思いました。地方更生保護委員会事務局長生駒貴弘氏はオフィスへの実際の行き方などご紹介いただきました。月形刑務所分類教育部 副看守長畑中弘氏からはアルコール依存症が理解できなかったことや、アルコール依存症との出会いなどをご紹介いただきました。札幌保護観察所 保護観察官 高橋智也氏はAAの認知度などを職場でアンケートをとって集計していただき、結果をご紹介していただきました。関係者の方からぜひAAのメッセージと言う声が上がって、拍手で会場がひとつになりました。2日目の仲間の集いでも道外の多くのメンバーから経験の分かち合いがありました。北海道新聞に告知が掲載され、当日取材も大きく取り上げて頂きました。

この2年近くの実行委員会でみんなやっと矯正関係者のこと、広報の重要性を考え始めています。フォーラムで多くのものを手渡していただき、北海道地域はやっと矯正メッセージのスタート地点に立つことが出来ました。私の責任。遠くない将来に皆様にお礼とともに矯正メッセージに入れたという報告が出来ることが応援して下さった皆様への恩返しだと思っています。関係者の皆様、道内、道外からの多くの方のご



参加に感謝申し上げます。

(*)全国矯正施設フォーラム開催に関して(2006年2月10～12日、第11回評議会報告書59ページ)「監獄法」の「受刑者処遇法」への法改正に伴い、矯正保護施設関連からの相談が多くなってくることが予想されるため、早めに開催したい。

⇒満場一致で常任理事会へ勧告

全国矯正・保護施設フォーラムの記録

※評議会報告書、ニューズレター、フォーラム報告書から得た情報です。過不足、修正などがありましたらJSOまでご連絡ください。

第1回AA日本矯正施設フォーラム:2006年12月16日(土)、17日(日)、場所:東京、のべ参加者数:不明

第2回AA日本矯正施設フォーラム in 山陰:2008年11月16日(日)、15日はプレフォーラム、場所:島根、のべ参加者数:172名(内、関係者36名)

第3回AA全国矯正&矯正施設フォーラム in 関西:2009年10月18日(日)、17日はプレフォーラム、場所:京都、のべ参加者数:不明

第4回全国矯正・保護施設メッセージ・フォーラム:2010年11月28日(日)、27日はプレフォーラム、のべ参加者数:100名

第5回AA全国矯正・保護施設メッセージ・フォーラム:2013年11月17日(日)、16日はメンバー分かち合い、場所:福島、のべ参加者数:100名

AA日本矯正・保護メッセージフォーラム:2014年10月3日(金)、4日はパブリックミーティング、場所:福岡、のべ参加者数:147名(内、関係者74名)

全国矯正・保護施設メッセージフォーラム:2015年10月29日(木)、30日(金)、場所:福井、のべ参加者数:129名(内、関係者33名)

第8回全国矯正・保護施設メッセージフォーラム in 北海道:2016年9月30日(金)、1日は分かち合い、のべ参加者数:171名(内、関係者57名)

■各地域より ラウンドアップ(以下、Rup)特集

2016年 北海道ラウンドアップ～at 層雲峡

テーマ:私たちの居場所～あなたも、ひとりじゃない～、日程:2016年9月2日～4日

参加してくれた仲間・関係者の皆様に深く御礼申し上げます

+-+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---

実行委員長 トモ

今でも覚えている……。5年前の6月、はじめてRupのパンフレットもらった時のこと……。AAにお邪魔はじめて、3回目くらいの時だったか、仲間から「トモさん Rupのパンフが出来たよ!北海道だけでなく本州からも沢山の仲間が集まるから～是非参加してね～」って。当時の僕の気持ちといえば「無理無理。っていうか冗談じゃない。何でわざわざそんな大勢のアル中の集まりに参加するのさ。もって病気が酷くなっちゃうよ」。そう、この病気だっけてことを認めていない認めたくない自分が居たから、そして仲間のことを仲間と思っていない自分だったから……。その後、類に違わず3回のアルコール専門病院の入退院へとつながり、その間に運よくAAにお邪魔ではなく本当の意味で繋がる事が出来た自分がいて。ついにはRup実行委員長までやらせて頂くことになるとは(笑)

今回の舞台は道北にある“層雲峡”。本番直前の台風でどうなるかとヒヤヒヤしたけれど無事天気も回復していざ本番へ。テーマは委員会メンバーの総意で決めた『私たちの居場所』～あなたも、ひとりじゃない～。オープニングセレモニー内ソーバーカウントダウンで偶然起こった仲間全員とのハイタッチを見て。夜の各種ミーティングの仲間の話を通

じて。ラッフルでの仲間の笑顔を見て。パブリックでの関係者のお話を真剣に聴く仲間を見て。メッセージ活動について話している仲間を見て。あらゆる分かち合いの場面で、『居場所』を、そして孤独じゃないことを感じる事が出来た気がする。参加したみんながそう思ってくれていたら、こんなに嬉しいことはない。Rupが終わった後のミーティングで仲間が言っていた言葉が忘れられない。「これまでアル中になって良かったなんて思ったこと一度も無いけど、今回のRupに参加してちょっとだけ良かったって思った」。うーん、泣けちゃいます。そして大きな共感です。僕自身この病気になって良かったなんて達観は出来ないけど、間違いなく一つだけ言えることは、この病気にならなかったら「仲間」には逢えなかったし『居場所』を見つけることは出来なかったなあって。来年北海道は40周年の節目を迎える。すでに実行委員会が立ち上がっており、一人でも多くの仲間が集まってもらうべく、良い意味で喧々諤々・悪戦苦闘しそうな様相であり、今から楽しみな限り。(ちなみに僕も懲りずに実行委員会メンバーとして参加中(笑))

先般内閣府が発表した「アルコール依存症に対する意識調査」では、相変わらず自助グループの認知率は低く感じられが、今後は今よりクローズアップされる機会が増えるかもしれない。でも、決して受け身になることはしないで、自分の出来ることは出来る範囲で能動的に行動することで一人でも多くのまだ苦しんでいる仲間には「あなたの居場所はここにあるよ!」って発信し続けなくてはと心から思う。そして、先行く仲間から言われた「サービスはやったもん勝ちだよ!」って言葉が今は身に染みる。間違いなくもらったものは大きいね。やったものにしかわからないサービスの楽しさ・大切さを伝えることも僕の責務かもしれない。

最後に、実行委員会メンバーに心から「ありがとう」&「お疲れ様」を贈ります。そして、参加してくれた仲間・関係者の皆様に深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。また来年、北海道40周年で元気に笑顔で逢いましょう!

2016年 東北ラウンドアップin宮城

テーマ:再生～笑えるようになった～、日程:2016年9月3日～4日

「イベントの半分は、当日来てくれる仲間と一緒に作る」

+-+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---+-+-+---

実行委員 たえこ

今年の開催地、宮城には、現在地区がありません。Rup実行委員会の立ち上げも、それまでの東北Rupに感銘を受けた、二人の仲間の声掛けから始まりました。立ち上げ当初、私は実行委員会に参加していませんでしたが、手作りのチラシを手にひとつひとつのミーティング場に挨拶をしてまわる仲間の姿が強く印象に残っています。

仲間の足を使った呼びかけに応え、十数名の仲間が集まり、2015年9月に実行委員会が立ち上げられました。年齢層は20代～60代まで多岐にわたり、そのほとんどが実行委員は未経験、「一緒にやりたい」の思いだけは人一倍、おぼつかない部分も多い集まりを、経験のあるメンバーが陰ながら見守ってくれるそんな実行委員会でした。

現在の宮城はサービス活動の担い手にソーバーの若いメンバーが多いのが特徴です。AAに来て間もない頃から、仲間が上手にAAのサービス活動に巻き込んで?少しずつ「経験」と「責任」を手渡してくれているお陰です。

また、東北でも「足を使う」ことの大切さも経験として述べ伝えられて

おり、日々多くのメンバーが他地域にも足を運んでいます。今回のRupでも「果たして人が集まってくれるだろうか？」という、未熟さからくる不安も手伝って、メンバーの多くが東北、関東を中心に沢山の地域に足を運んで広報活動をしていたのが印象的でした。この広報活動のお陰か、他にも魅力を感じていただいたのかは解りませんが、短期間で、定員を越えるお申込みをいただき、驚きながら対応に追われたのも良い思い出です。私自身「これだけの仲間が来てくれるのだから、何とかなる。頑張ろう」と一年の中でも辛い時期に、随分と励まされました。

また、経験がないからこそ、自由で時には突飛なアイデアが企画として通ってしまうのも、宮城の魅力だと思います。

その一部を紹介すると、200個のお土産の一部を手作りでみんなで作る、リレー・スピーチ、合唱、AAの英語CDの翻訳、屋外での足湯ミーティング、手作りで工夫を凝らしたOSM(オープン・スピーカーズ・ミーティング)やミーティング等です。

Rupの開催地については、前回の宮城Rupが松島での開催だったこともあり、当初は沿岸部を中心に会場を探しましたが、この辺りは被災地域で復興工事の影響もあって今回は叶いませんでした。酒を飲んでいた頃は、恐れから目を背けていた場所です。今回、実際に足を運んで宮城の現状を知ることができたことも良い経験でした。

最後に辿り着いたのが、今回の開催地である宮城県北部の山あいにある自然豊かな旅館です。会議室の多さや美味しい食事はまさにAA向き。女将や支配人のお人柄も魅力的で、右往左往する私達を、まるで子供達を見守るように温かく協力してくださいました。

沢山の方々のご協力を得て本番を迎えましたが、当日のプログラムを充実させてくれたのは、やはり、参加者による分ち合いだったと思います。オープニングでは、東北内外のオールドタイマーから、宮城のアルコールの多くを治療して下さっているI先生へ、そして新しい仲間へとバトンとスピーチが受け渡されました。韓国から駆け付けてくださった仲間にもご参加いただき、貴重なお話を聞くこともできました。裏方をしながら、話に耳を傾けていると自然と笑いや、時には涙がこぼれてくる…1年間の苦勞が報われるそんな時間でした。「イベントの半分は、当日来てくれる仲間と一緒に作る」先行く仲間から聞いた、そんな言葉を実感しました。

こうして振り返ると、仲間も自分も誰も信じられない、唯一の拠り所だった酒や薬も取りあげられ絶望していた自分が、支えてくれる仲間とハイパーパワーを信じて役割を全うできた事実に驚き、大きな恵みを感じます。東北Rupにご協力いただいた全ての方々に感謝しています。ありがとうございました。

2016年 2016年関東甲信越秋季ラウンドアップ

テーマ:一緒にやろうよ! 全員集合〜希望への架け橋 in 武蔵嵐山、日程 2016年9月30日〜10月2日

仲間と一緒に運動会

実行委員長 ペッパー

私達がこの話をいただいたのは、開催一年以上まえの2015年はじめの頃だったと記憶しています。実行委員会が立ち上げる前の話し合いでは、どんなRupにしたいのかを考えながら、埼玉東地区は立候補するのか?しないのか?の話し合いをしました。

今回のRupは、宿泊費を『安価』にしたいと言う意見が多く、一番大事にしたい案だと思いました。全員で決めた方向で最後まで『ヤル』と決意したのはこの時だったと思います。

宿泊施設も国立女性教育会館に決まり、それではどんなRupにしたいか話し合いを進めて行くうちに全く未知の、運動会が挙がりました。経験した人が一人もいない不安と、怪我人が出るのではと不安が入り混じりながらも、新しい企画にトライしてみました。ミーティング以外で楽しんでもらえるコーナーを是非作りたいと、企画者が中心となり盛り上がりました。他にも、新しい企画として『BBQ』なども挙がっていましたが、時間的な都合もあり協議仕切れませんでした。

運動会を企画するうえで、体育館に用具が無かったので、レンタルする事になった『玉入れ』は予算的に心配でした。仲間からせっかくの運動会だから運動会らしくやって欲しい、ある程度のレンタルも仕方ないから予算案を出して欲しいと言われ、彼に自分の心配事を取り除いてもらったような気がします。誰が見ても運動会らしい種目を用意する事が出来たと思っております。

最後の実行委員会が終わっても、運動会の準備は終らず、何回か企画委員で集まり話し合いや道具作りを行いました。童心に返り必死で競技に参加している仲間や楽しそうな声を聞いた時、いろいろな種目を用意したり、手作りの用具を仲間とブツクサ言いながら作った苦勞が、一瞬に吹き飛び『させていただいた』喜びに変わりました。結局準備はRup前日までに終らず、進行の裏で準備している状況ではありましたが、多くの仲間が無言で手伝ってくれる姿に心感謝いたしました。このRupで様々なものを見聞きし一番心豊かにしてもらえたのは自分でした。

この経験を今後の人生における宝物としたい。

副実行委員長 カズヒロ

埼玉東地区委員会に2016年秋季Rupを埼玉東地区で開催してみないかと話があった時、私は地区委員であったこともあり、まずは地区のグループへ代議員を通して伝え、自身がチェアマンとなってRupのためのミーティングを何度か開催した。その結果、開催地として立候補することになり、このミーティングは地域委員会でRup実行委員会に承認された。

“ラウンドアップ”をインターネットで調べると直訳的な意味は「家畜の駆り集め、駆り集めた家畜(Weblio辞書より)」とあるが、そこから、より多くのアルコールが集う場所を提供することが実行委員会への命題と理解し、まず問題を認識すること、そして解決方法を模索すること、解決方法がわかったらそれを行うこと。まさに12のステップであった。

参加費用を安くすればすぐに参加人数が増える、私にはこんな単純なものとは思えなかったもので、宿泊参加にこだわらず日帰りでも十分に楽しんでいただけるよう、参加者が夕食や昼食を自由に組み合わせることが出来るような仕組みを考えた。これによって自分の参加スタイルに合わせて、例えば土曜日の日帰り参加なら、昼食だけ取って帰ることもできるというような参加の形である。この仕組みを利用した参加者も多数いたが、ありがたいことに宿泊参加がとでも多かった。

AAはミーティングもそうだが全て約束して集まるものではないと思う。Rupもはたして予算で見積もった人数が集まるかどうか正直、ハラハラしたが、多くの仲間がRupに参加していただき心より感謝している。初参

加者が全体の三分の一は特にうれしかった。

とても実りの多い経験であったが、その反面、Rupを一つの地区が担当するには、いささか大がかりになっている面も感じる。準備段階でも実行委員会とは別に時間や場所を設けて作業する時間が多い。宿泊受付のパソコン入力1日あたり13時間に及ぶこともあった。

今後もRupを継続して行くには、いくつかの地区での合同開催、ないしは地域を分割して小規模のRupをたくさん行うことなどを考えるべきかもしれない。

しかし、実行委員会へ集った仲間とのフェロウシップ(仲間意識)は何事にも代えられない経験として素晴らしいものであった。この経験を今後の人生における宝物としたい。

2016年 2016年中四国ラウンドアップ

テーマ:気楽にやろう、でもやろう ～生きているうちが花なのよ～日程 2016年8月26日～28日

自分にとって苦しく辛かったことなど小さなことだと思いました。

実行委員長 河田

2016年8月26日(金)～28日(日)、岡山県倉敷市の宿泊施設におきましてAA中四国地域Rupを開催させて頂きました。期間中、我々の予想をはるかに上回る仲間、関係者の方々のご参加を頂きました。あらためて御礼を申し上げる次第です。

5年前、岡山で開催されました時も実行委員として参加させて頂きました。その時は宿泊施設の送迎バスに同乗したり、ラフタイムでお手伝いさせて頂いたりしたのですが、その他のことはほとんど記憶に残っていません。酒が止まってまだ日が浅く、まだまだ周りを見る余裕がなかったのだと思います。

そんなだった私が、今回は先行く仲間から実行委員長に推していただき、準備段階を含めて1年間、助けられ、励まされ、なんとか全うすることができました。しかし、私自身が未熟なため、何度も実行委員長を降りたいと思いました。何度か先行く仲間へ愚痴をこぼしたりもしました。また、開催日が近づくにつれて細々とした作業が増え余裕がなくなり不安な気持ちが増していきました。

自分ひとりで抱え込んでしまって苦しくなっていく…。何度もこのパターンにはまりこんでいってしまいました。私自身の永遠の課題かもしれません(おおげさすぎるかな?)。

もちろん、ありがたくて嬉しいこともありました。他地域の仲間の方が実行委員会の段階から参加して下さり開催期間中もすぐく助けて下さったこと。過去のRupの資料を提供して下さり実行委員会でもリードして下さった仲間の方。開催期間中、黙々と受付のお手伝いをして下さった仲間の方。パブリックミーティングの司会の為だけにわざわざ久里浜からお越し下さり、終わるとすぐ次の仕事先にとんぼ帰りされた河本先生。パブリックミーティングについて色々アドバイスして下さった友人の方。凹んでいるとき、叱咤激励して下さった仲間の方…。そして何より

ご参加いただいた160余名の仲間とご家族と関係者の方々。自分にとって苦しく辛かったことなど小さなことだと思いました。さよならミーティングで最後にあいさつさせて頂いたとき、つい泣きそうになってしまい、慌ててみんなを笑わせるようなことを言ってしまいました。後で先行く仲間から「いいこと言うじゃないか」とその冗談を褒めてもらいましたが。

Rupが終わって数日後、県外の仲間の方から労いのお電話をいただきました。そのなかで「さよならミーティングが終わって最後、お前が胴上げでもされるんじゃないかと思ったよ」ということを言われました。実際胴上げはされませんでした。Rupが成功裡に終わった証なのではないかと思い、非常に嬉しく思いました。

このRupに実行委員長として携わらせていただきまして、あらためて自分の無力であること、日頃から仲間の方にいかに自分が助けていただいているのかを再認識することができました。また、準備の段階からほぼすべてのことに携わらせていただいたことで貴重な経験を積ませていただくことができ、自分自身の今後の人生においても非常にプラスになったような気がします。このようにして受け取ったものをまた次の仲間へ受け渡すことが出来ればいいなと思っています。

最後になりましたが、頼りなくて弱々しい実行委員長の私を助け励まして下さった実行委員の仲間の方々、そして、今回のRupについて寄稿を勧めてくださいました仲間の方に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

■ JSOより

○に△のマークについて

JSO 新井

○に△のシンプルなマークは、私たちメンバーにとってとても馴染みのあるマークですが、1994年のアメリカ/カナダ評議会では「このマーク使わない」ことが決議されました。これに関連して『AAサービス・マニュアル』124頁から一部抜粋して紹介します。「もともとAAIに由来せず、またAAIによって承認されていない品物やサービスにこのマークを使用することは、法的にはAAのマークを侵害することになり、弱めることにもなります。その結果として受ける損害は、AAはマークで象徴されていますから、そのマークとAA自体が、AAの中のものでもなく、AAの目的にも矛盾しているさまざまな製品やサービスと関連付けられるということです。これはAAのマークの、アルコールクス・アノニマスのシンボルとしての意味と重要性を失わせる原因にもなるでしょう」

さて日本では、1992年にこのマークを登録商標とすべく申請しましたが、あまりに単純で普遍的(*)な図形であるため、許可が下りませんでした。とはいえメンバーからたまに、このマークの由来を問われます。ニューズレター138号にその詳細が掲載されていますのでご一読を。

ホームページ⇒ <http://aajapan.org/nl/>

(*)広く行き渡るさま。極めて多くの物事にあてはまるさま。

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス（JSO）

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金)10:00～18:00 (土・日・祝) 休